大場秀章著作選

全二巻

Ⅰ 植物学史・植物文化史

Ⅱ 植物分類学・植物地理生態学

八坂書房

〈造本・体裁〉A5判　上製　432ページ前後
本体 4,800円（税別）
〈ISBN〉Ⅰ　ISBN4-89694-788-6
Ⅱ　ISBN4-89694-789-4

大場秀章著書のご案内

植物学のたのしみ　大場秀章著　四六　上製　272頁　本体2000円
身近な花や樹に触れるとき、自然の仕組みを、人とのかかわりを考えてみる。第一人者が綴る、趣味としての「植物学」入門。

植物学と植物画　大場秀章著　A5　上製　352頁　本体4800円
植物画とは何か。古来、どんな目的でそれは描かれてきたのか。そして植物画の未来は。カラーによる植物画の名品をはじめ、豊富な図版を示しながら、主に近代植物学との関わりの中で、植物画（家）が果たした役割と意義を詳述する。

日本森林紀行　大場秀章著　四六　並製　200頁　本体1800円
日本中の名森林を訪れ、各地の自然のありかたや歴史、土地の人々との結びつきなどを考察した旅。北海道、東北、裏磐梯、京都、熊野、四国、さらには西表島まで、日本各地の森を訪ね、未来を展望し、本来あるべき姿を問う。

日本植物誌　シーボルト『フローラ・ヤポニカ』　木村陽二郎・大場秀章解説　B5　上製　160頁　本体4500円
原著は、日本の植物を本格的な彩色図譜として初めてヨーロッパに紹介した著名な本である。その美しさは植物図譜中の傑作として高く評価されている。全151図のすべてを収録する。

八坂書房
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町 1-4-11
TEL.03-3293-7975　FAX.03-3293-7977

きりとり線

帳合貴店名

注文書

八坂書房

大場秀章著作選

Ⅰ◎植物学史・植物文化史 ISBN4-89694-788-6　本体 4800円+税	冊
Ⅱ◎植物分類学・植物地理生態学 ISBN4-89694-789-4　本体 4800円+税	冊

刊行のことば

二十世紀後半以来、生物学は新たな理論と技術を手中に収め長足の進歩を遂げようとし、植物学もまた、その手法を駆使して自然の体系の再構築に新たな頁を加えようとしている。だが近年のその傾向は、ときに「植物学のたのしみ」を白亜の塔の深奥に閉じ込め、彼我の乖離を恨む声を余所に、あたかも木を見ずして森を語り、花を見ることなく自然の摂理を語ろうとしているかの様相も垣間見せている。斯様な中で、常に卓越したフィールドワーカーとして目前の現象をその背後に存する全景に探求しつづけ、自らの思索をもって語る姿勢を貫いてきた大場博士の諸著作を収録刊行することは誠に時宜に叶ったものと確信する。

大場秀章博士は一九四三（昭和十八）年東京に生まれ、若くして植物学に道を定め爾来一途に学究生活を歩んでこられた。その研究分野は植物分類学・植物地理学・生態学から植物学史・植物文化史まで広範に及び、研究者としてのみならず教育者として、さらにヒマラヤ植物研究をはじめ数々の国際プロジェクトにおいては卓越した統率者として手腕をいかんなく発揮し、国際的な評価を得るとともに斯界に一頭抜きん出た存在である。その間に発表された論考は、専門はもとよりいまや世界的関心事となった生態系保全や環境問題にも早くから警鐘を鳴らし、近年では江戸の園芸や植物学・本草学・植物画の世界にまで及び、その筆は止まるところを知らない。

本著作選により、われわれは真に知的好奇心を満足させるにたる喜びが植物学にもまた存するのであり、植物の世界には探求されることを俟つ未だ手つかずの真理が多々あることを知るだろう。その喜びを読者諸氏と分かつことを期して本選集を送る次第である。

大場秀章著作選 ◆各巻目次◆

Ⅰ 植物学史・植物文化史

第1部 **植物学における知の体系化**

自然の体系
植物分類学の始祖リンネと種名のタイプ
アブラナ科栽培植物の学名について
おし葉標本とハーバリウム
大学博物館が目指すもの
ヨーロッパ中世の『植物誌』――その特徴と意義

第2部 **日本近代植物学への架け橋** ――江戸・明治の巨人たち

〈講演録〉江戸の植物学を俯瞰する
水谷豊文と『木曾採薬記』
日本における植物学の歩みと小石川植物園
小石川植物園の一般への公開
伊藤圭介と物産学
東京大学植物標本室に関係した人々
松村任三先生の事跡を讃える
日本におけるボタニカルアートの歴史
謎の植物画家、加藤竹斎
五百城文哉の植物画

第3部 **日本の植物に魅せられた人々**

黎明期の日本植物研究
ケンペルをとらえた日本の植物
ケンペルの日本植物への挑戦
ツュンベルクと江戸時代の植物学
シーボルトに学ぶこと
シーボルト植物コレクションを集大成したミクェル

Ⅱ 植物分類学・植物地理生態学

第1部 **極限に生きる植物**

極限環境での植物の適応／ヒマラヤの高山植物相とその特徴／ヒマラヤのフロラ考―その東西比較に向けて／ヒマラヤとアルプスの高山植物／崑崙山脈の植物／ケニア山の植物・植生／中央アフリカの巨大高山植物の知恵　など

第2部 **生態系の保全と植物学**

温暖化の影響と対策――生物多様性への影響／地球温暖化と植生、種多様性：IPCC（気候変動に関する政府間パネル）報告の検討／森のアジア／砂漠の中の森林／野生植物の保護と目に見えない自然の攪乱／緑の優先と遺伝子保存　など

第3部 **日本の自然と植物の多様性**

日本の森林／日本のブナ／暖かさの指数からみた日本の植生／関東地方のフロラの概要／日光の自然と植物／南硫黄島のフロラとその特徴／植生が噴火から受けた影響／屋久島の植物／日本人の自然観の源流／紀伊半島の自然――山地を刻む深い森と谷／伊勢神宮の森　など

第4部 **植物の分類学と生物地理**

アジサイの分類と系統／サクラ分類のむずかしさ／シャクナゲの分類体系覚書／ハギの分類／ドクウツギの分類と生物地理／イワベンケイ族の生物地理／南西諸島をめぐる生物地理学／分岐論と現代系統分類学　など

◆大場秀章著作一覧

『大場秀章著作選』を推す

金井　弘夫（国立科学博物館名誉館員）

大場秀章さんが東京大学を定年退官されることになった。彼の若い頃からを見てきた私には、時のたつのは速いものだとの感が深い。大場さんは植物分類学が専門だが、芸術や古典の素養も豊かで、おまけに文筆の才にも恵まれている。忙しい公務や研究の合間に、どうしてこんなに書けるのかと思うほど、あとからあとからいろんなテーマの本を書いておられた。そういうアイデアが泉のように湧き出してきて、それを展開する下地や資料の準備が整っているのだろう。いずれも植物に関わるものだが、いわゆる「硬い」ものばかりとは限らず、われわれに「こんな切り口もあるのだ」ということを教えてくれるものが多い。

大場さんの最初のヒマラヤ植物調査は、雨期の高山帯に初めて踏み込んだときだった。プリムラが足の踏み場もなく咲き乱れ、奇妙な形の「温室植物」が林立していた。三日間、われわれ以外の人間に出会わなかった。はじめての体験でこういう場に出くわしたことは、彼に強烈な印象を与えたことだろう。彼は自分の時代になると、研究対象をヒマラヤ全域の、とくに高山帯に拡張し、多くの仲間を組織したうえ、国際的な研究態勢にまで発展させた。彼の目はヒマラヤばかりでなく、他の大陸の高山帯にまでおよんでいる。植物学の研究史や文化史についてもよき師にめぐまれ、多くの業績を発表している。

この度、彼の作品の選集が出版される。目次を見れば、内容の多彩さは察しがつくだろう。多くの人が、この選集から自分の関心事を引き出し、あるいは新たな研究や趣味のヒントを得られることを疑わない。退官後は、いろいろな制約から開放され、彼の文筆活動は、研究の進展とともに一層活発になるだろう。次の選集が編まれるのも、そう遠い将来ではあるまい。